

第 19 回日韓アジア未来フォーラム

「岐路に立つ日韓関係：これからどうすればいいか」

プログラム

主 催	(公財) 渥美国際交流財団関口グローバル研究会 [SGRA] (日本)
共 催	(財) 未来人力研究院 (韓国)
日 時	2021 年 5 月 29 日 (土) 14:00~16:20
開催方法	オンライン (Zoom ウェビナー) にて開催
言 語	日本語・韓国語 (同時通訳)
概 要	<p>司 会：金雄熙 (キム・ウンヒ) 仁荷大学教授 開会の辞：今西淳子 (いまにし・じゅんこ) 渥美国際交流財団常務理事・SGRA 代表</p> <p style="text-align: center;">第 1 部 講演とコメント</p> <p>講 演 1：「岐路に立つ日韓関係:これからどうすればいいかー日本の立場から」 講 演 者：小此木 政夫 (おこのぎ・まさお) 慶応義塾大学名誉教授 コメント：沈揆先 (シム・キュソン) ソウル大学日本研究所客員研究員</p> <p>講 演 2：「岐路に立つ日韓関係:これからどうすればいいかー韓国の立場から」 講 演 者：李元徳 (イ・ウォンドク) 国民大学教授 コメント：伊集院敦 (いじゅういん・あつし) 日本経済研究センター首席研究員</p>
	<p style="text-align: center;">第 2 部 自由討論</p> <p>コメント (各 5 分) 金志英 (キム・ジヨン) 漢陽大学副教授 小針進 (こはり・すすむ) 静岡県立大学教授 西野純也 (にしよ・じゅんや) 慶応義塾大学教授 朴栄濬 (パク・ヨンジュン) 国防大学教授</p> <p>講演者と討論者の自由討論 20 分</p> <p style="text-align: center;">第 3 部 質疑応答</p> <p>アシスタント：金崇培 (キム・スンベ) 忠南大学招聘教授 Zoom ウェビナーの Q&A 機能を使い質問やコメントを視聴者より受け付ける (日本語・韓国語 2 言語対応) 閉会の辞：徐載鎮 (ソ・ゼジン) 未来人力研究院院長</p>
同時通訳	日本語⇄韓国語：李 ヘリ (韓国外国語大学)、安 ヨンヒ (韓国外国語大学)
タイムテーブル	14:00 開会 14:00~14:05 開会の辞 14:05~15:05 第 1 部 講演とコメント 15:05~15:45 第 2 部 自由討論 15:45~16:15 第 3 部 質疑応答 16:15~16:20 閉会の辞 16:20 終了予定
参加費	無料

フォーラムの趣旨

歴史、経済、安保がリンケージされた複合方程式をうまく解かなければ、日韓関係は破局を免れないかもしれないといわれて久しい。日韓相互のファティグ（疲れ）は限界に達し、日韓関係における復元力の低下、日米韓の三角関係の亀裂を憂慮する雰囲気は改善の兆しを見せていない。尖鋭な対立が続いている強制徴用（徴用工）及び慰安婦問題に関連し、韓国政府は日本とともに解決策を模索する方針であるが、日本政府は日本側に受け入れられる解決策をまず韓国が提示すべきであるという立場である。なかなか接点を見つけることが難しい現状である。

これからどうすればいいか。果たして現状を打開するためには何をすべきなのか。日韓両国政府は何をすべきで、日韓関係の研究者には何ができるか。本フォーラムでは日韓関係の専門家を日韓それぞれ4名ずつ招き、これらの問題について胸襟を開いて議論してみたい。日韓の基調報告をベースに討論と質疑応答を行う。

講演内容：「岐路に立つ日韓関係:これからどうすればいいかー日本の立場から」

アイデンティティの衝突という観点から見れば、日韓歴史摩擦の根本的な原因は日本による韓国併合と反省や謝罪を欠いた国交正常化にある。日本人はそのことを銘記しなければならない。しかし、韓国人の怒りは村山談話や金大中・小渕共同宣言以後も継続した。朴槿恵大統領の対日歴史批判は中国の経済大国化を背景にしていた。また、韓国司法の積極的な政治介入が歴史摩擦を拡大し、その解決をより困難にした。他方、それに対抗して、保守的な歴史観をもつ安倍首相が歴史摩擦と対韓貿易管理をリンケージした。今後の政治日程を考えれば、日韓関係を短期的に改善することは容易ではない。

長期的に見れば、日本との比較において、韓国人が自信をつけている。先進的なIT技術の普及、エンタメ産業の隆盛、1人当たりGDPや国防費の上昇などが、そのための指標を提供している。新しいアイデンティティの誕生と日韓の世代交代が相互関係の不幸な歴史の清算を促進するだろう。バイデン政権の出帆は新たな国際システムの変動を予感させる。とりわけ、米国が中国を戦略的な競争者として認定し、同盟国や友好国に団結を呼びかけていることが重要である。日韓両国は、米中対立の狭間にあり、基本的価値を共有するミドルパワーである。戦略共有が定着すれば、それが日韓の相互イメージを改善し、広範な認識共有を先導するだろう。金大中・小渕共同宣言の再確認が当面の目標になる。



講演者 小此木 政夫（おこのぎ・まさお）慶應義塾大学名誉教授

1945年生まれ。日韓フォーラム日本側座長。専門は国際政治論および韓国・北朝鮮政治論。慶應義塾大学院在学中に延世大学に交換留学（1972-74年）。慶應義塾大学法学部教授（1985年）。法学博士。慶應義塾大学地域研究センター所長 法学部長を歴任。日韓共同研究フォーラム日本側座長（1996-2005年）、第一次日韓歴史共同研究委員会日本側幹事（2002-05年）、日韓新時代共同研究プロジェクト日本側委員長（2009-13年）などを務めた。九州大学特任教授（2011-14年）。著書に『朝鮮戦争』（1986年）、『韓国分断の起源』（2018年）、編著に『ポスト冷戦の朝鮮半島』など。大韓民国修交勲章受賞（2020年）。

講演内容：「岐路に立つ日韓関係：これからどうすればいいか－韓国立場から」


韓日関係は最悪の状況だ。歴史、外交安保、経済を含むすべての領域にわたって協力どころか、葛藤が拡散している。韓国は、対日関係を再構築するための戦略を整えなければならない。東京を軸に活用して対米外交、対中外交、対ロシア外交、そして対北朝鮮関係を構想する想像力が求められる。米中戦略競争が激化する中、日韓は多層的かつ多次元的な協力を推進する方向に進むことが望ましい。冷戦時代、米ソが理念的、軍事的対立を繰り広げている間、西ヨーロッパ（独仏ポーランド）諸国は自ら戦争と対立の歴史を和解で克服し、ヨーロッパを平和と繁栄の共同体にしていっていった。このような歴史的過程は、米中両強の構図に挟まれている韓日関係の未来ビジョンを考える上で多くの示唆を提供してくれる。民主国家では国民世論は重視されなければならないが、逆に国民感情、大衆の感情に流される近年の日韓外交の落とし穴に落ちてはならないという点を強調したい。冷徹な国益の計算と徹底した戦略的思考で対日外交を構築しなければならず、その基盤は日本のありのままのリアリティを正しく読むことから出発しなければならない。



講演者 李元徳（イ・ウォンドク）国民大学教授

ソウル大学外交学科で学士号と修士号、東京大学で国際関係学の博士号を取得。1998年から国民大学校日本学科教授を務め、日本学研究所長を歴任。『日本空間』の編集者。外交部、統一部、民主平統、北東アジア歴史財団、民主平統などの諮問委員を歴任。専門分野は日本の政治外交、北東アジアの国際関係。特に韓日関係及び韓日外交史に関する実証的な分析に関心を寄せている。著書に「日韓過去史処理の原点」（単著）、「日韓関係史 1965-2015 政治」（共編）など。

申込方法等

参加申込方法	こちら よりお申し込みください。 右のQRコードからもアクセスいただけます。	
お問い合わせ	SGRA 事務局 sgra@aisf.or.jp 当日テクニカルサポートもこちらよりご連絡ください。	
質問とコメント	<p>【当日、第3部の質疑応答で、質問とコメントを募集します】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 質問とコメントはウェビナー画面の「Q&A 機能」を使ってイベント開始直後から随時書き込んでいただけます。 2. お名前と質問・コメントを5行程度に短く簡潔に書き込んでください。 3. 質問とコメントは日・韓いずれかの言語でご記入ください。いただいた内容は別の言語に翻訳され、Q&A 回答欄に表示されます。 4. 質問に対する講演者や司会者の答えは Q&A 回答欄には表示されません。第3部の質疑応答の時間に口頭でお答えします。 5. 時間が限られているため、全ての質問・コメントを翻訳もしくはお答えすることができない場合がございます。あらかじめご承知おきください。 	
アンケート	当日ウェビナー終了後にアンケートが表示されます。 今後の運営のため、ご協力をお願い申し上げます。	